

研究成果の紹介

1 小麦有望系統「中国151号」

ねらいと成果

現在、全県的に栽培されているシロガネコムギは、赤さび病やフレッケン症（成熟期に葉が黄変する生理障害）が生じやすく、多くの年で成熟期まで生葉が維持できず、減収を余儀なくされている。このため、高品質かつ安定した収量が得られる系統を奨励品種に採用すべく、奨励品種決定調査を行ってきた。近畿中国四国農研で育成された中国151号は前記の病害や症状に強く、生育量も多いため、5%程度の収量増が期待できることがわかった。

内容

シロガネコムギに比べて、穂数はやや少ないが、大粒で、多収である。品質もシロガネコムギと同程度で、良好である。検査等級は1上～中と、きわめて良好である。赤さび病は明らかに発生が少ない（表）。また、シロガネコムギに比べて製粉性、製麺性に優れており、麺の食味官能調査でも、粘弾性の評価はシロガネコムギを上回る（データ省略）。

昨年、小野市で地元小麦で特徴ある製品開発を行いたいとの要望があり、そこで中国151号を試作していただいた。その生産物で麺を打ち、各種イベントを利用したパネルテストの結果は、概ね好評で、小野市の特産品として売り出そうとしている。

今後の方針

近畿中国四国農研では、本年中に品種登録出願予定である。次年度は、さらに大規模に試作を行い、流通評価を得たいと考えている。その結果次第で、大手実需者の理解を得つつ、奨励品種採用を検討する。

澤田富雄（農業技セ・作物部）

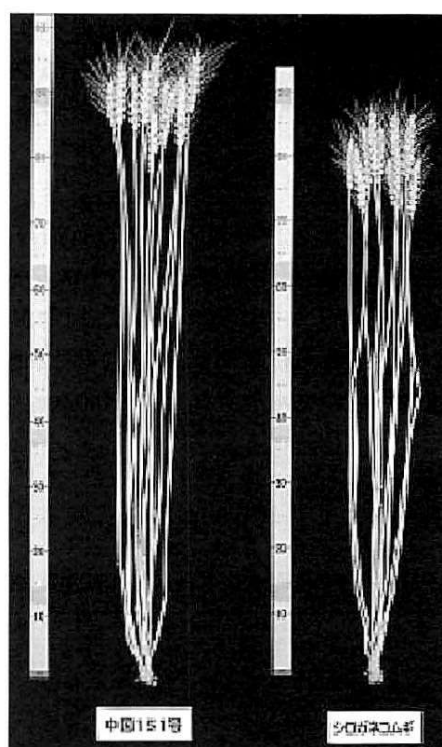


図 中国151号の草姿
(近畿中国四国農業研究センター小麦育種研究室撮影)

表 中国151号の生育・収量・品質（2002～2004年）

| 品種名 | 出穂期 | 成熟期 | 稈長 | 穂長 | 穂数 | 障害の多少 | | | 子実重 | 同左比率 | 容積重 | 千粒重 | 品質 | 検査等級 |
|-----------|------|-----|----|-----|------------------|-------|------|------|------|------|-----|------|-----|------|
| | | | | | | 倒伏 | 赤さび病 | 赤かび病 | | | | | | |
| | 月日 | 月日 | cm | cm | 本/m ² | | | | kg/a | % | g/L | g | | |
| 中国151号 | 4.15 | 6.3 | 78 | 7.5 | 526 | 0.0 | 1.0 | 0.8 | 50.1 | 106 | 781 | 37.4 | 3.1 | 1上～中 |
| 比 シロガネコムギ | 4.15 | 6.2 | 72 | 7.3 | 575 | 0.0 | 2.5 | 0.8 | 47.2 | 100 | 794 | 34.6 | 2.6 | 1上～中 |

注) 障害の多少は無(0)～甚(5)の6段階、品質は1(上上)～4(中中)～6(下)を示す。